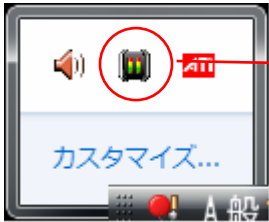


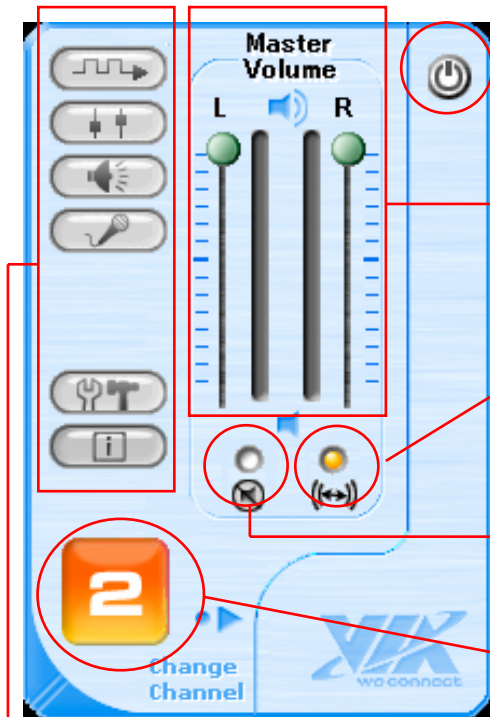
■ オーディオコントロールパネル(Audio Deck)の起動

Windows 7の通知領域(タスクトレイ)上のオーディオコントロールアイコンをクリックして起動します。
または、[スタート]→[すべてのプログラム]からEnvy24HFAudioDeck Control Panelをクリックして起動することもできます。



オーディオコントロールアイコン

■ オーディオコントロールパネル(Audio Deck)の使い方



クリックするとパネルを閉じます。

マスターボリューム
全体の音量を調節します。

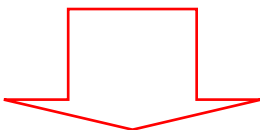
フェーダーリンク
左右のボリュームが同期して上下に移動します。
クリックしてボタンを消灯させると、左右別々
で音量を調節することができます。

ミュート
全体の音声を消音にします。
クリックしてボタンを点灯させると有効になります。

スピーカーのチャンネル数が表示されます。

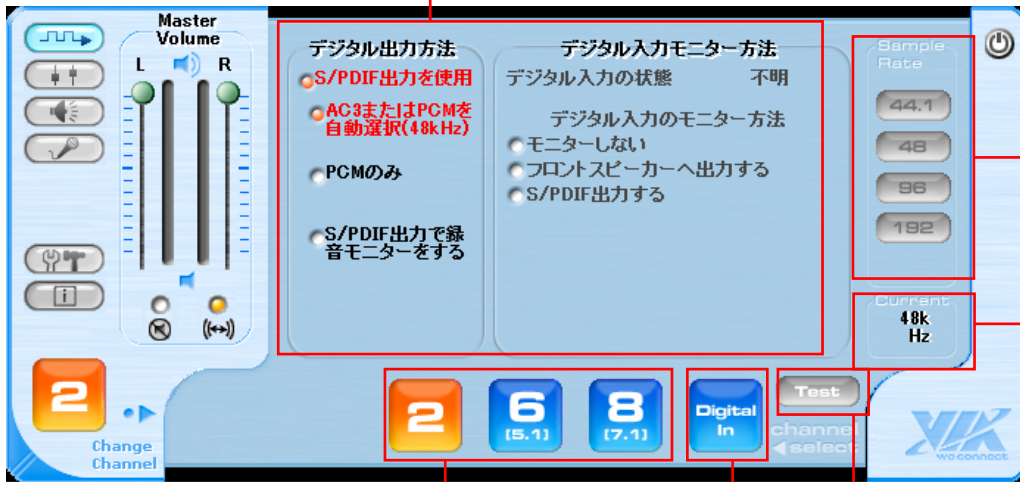
パネル切り替えボタン

パネル切り替えボタンをクリックすると各メニューが表示されます。



各メニューが表示されます。

S/PDIFコントロールパネル、スピーカーパネル、再生パネル、録音パネル、拡張設定パネル、サウンドエフェクトパネル、システム情報パネルがあります。



デジタル出力のサンプリングレートを切り替えます。

再生しているサンプリングレートを表示します。

スピーカーのチャンネル数を切り替えます。

デジタル入力に切り替えます

テスト音を出力してスピーカーの接続状況を確認することができます。

■ デジタル入出力の設定をする(S/PDIF コントロールパネル)

S/PDIFコントロールボタンをクリックしてパネルを開きます。

[S/PDIFコントロール]パネルでは、デジタル出力の方法とデジタル入力のモニター方法などを設定します。



●[デジタル出力方法]を設定する

1. デジタル出力の有無

S/PDIF出力を使用

再生時、デジタルアウト端子から再生を行うときにチェックをつけます。チェックをはずすとデジタル出力されません。

2. デジタル出力信号の種類を選ぶ

AC3またはPCMを自動選択(48kHz)

光デジタルアウト端子から出力する音声の形式(AC3またはPCM)を自動選択して出力します。出力される音声のサンプリング周波数は[48kHz]固定となります。インストール時の設定です。

PCMのみ

WAVEなどのPCM音声のみ出力します。パネル右部のSample Rateから任意のサンプリングレートを選択することができます。

音楽を再生中に選択を切り替えた場合、変更を有効にするために、一旦再生を停止してから再度再生をおこなってください。Sample Rateは[44.1][48][96][192]から選択ができます。

S/PDIF出力で録音モニターをする

マルチ入出力コードのライン入力端子からアナログ入力した音声をデジタルアウト端子からデジタル出力しモニターする場合に選択します。



●[デジタル入力モニター方法]を設定する

1. デジタル入力に切り換える

再生している場合は停止し、必ず再生アプリケーションを閉じてから、Digital Inボタンをクリックしてください。(再生アプリケーションを閉じないでクリックした場合には、エラーメッセージが表示されます。)



クリックする

2. デジタル入力の状態を確認する

デジタル入力の状態

デジタル音声信号の入力の状態が表示されます。デジタル音声信号が入力されていない場合は[不明]と表示され、デジタル音声信号が正しく入力されている場合は[Locked]と表示されます。

3. デジタル入力のモニター方法を設定する

モニターしない

デジタル入力した音声をモニターしない場合を選択します。

フロントスピーカーへ出力する

デジタル入力された音声をマルチ入出力コードのフロントスピーカーへアナログ出力しモニターすることができます。

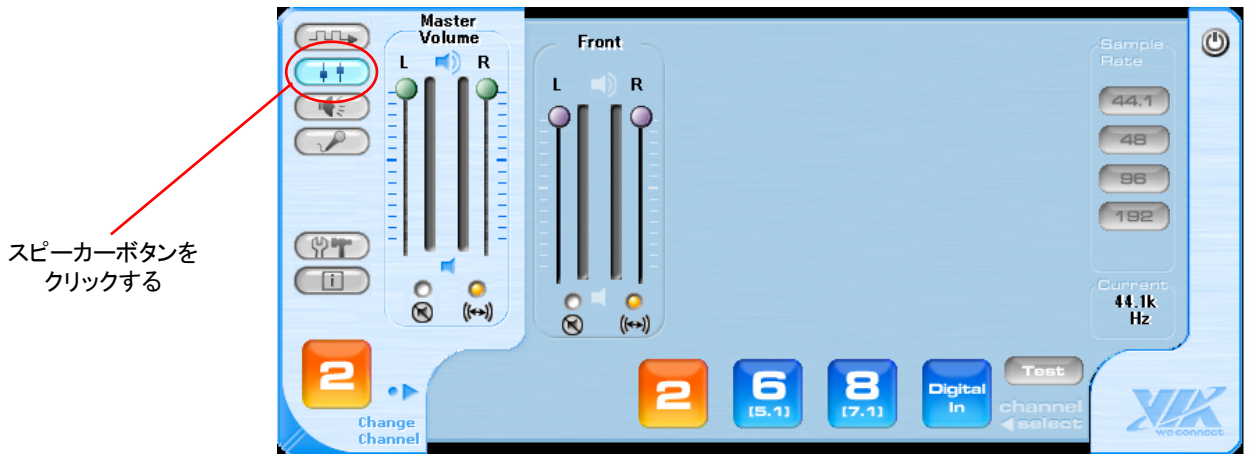
インストール時の設定は有効となっています。

S/PDIF出力する

デジタル入力された音声を光デジタルアウト端子からデジタル出力してモニターすることができます。

■ マルチチャンネルスピーカーのボリュームを調整する(スピーカーパネル)

スピーカーボタンをクリックしてパネルを開きます。[スピーカー]パネルでは、各スピーカーの音量を調整することができます。



1. スピーカーのチャンネル数を設定する

マルチ入出力コードのスピーカー出力に4ch以上接続している場合はパネル下部の丸いボタンから接続しているスピーカーの数にあったボタンを選んでクリックしてください。選択されたスピーカーの数に応じた画面に切り替わります。



2. 各スピーカーの音量を調整する ボリュームフェーダー

各スピーカーの音量を調整します。

ミュート

各スピーカーの音声を消音にします。クリックしてボタンを点灯させると有効となります。もう一度クリックするとチェックが外れ、音が出ます。

フェーダーリンク

各スピーカーの左右のボリュームが同期して上下に移動します。
クリックしてボタンを消灯させると、左右別々で音量を調整することができます。

- スピーカーの接続状況を確認する(スピーカーテスト)(アナログマルチチャンネル出力用です)
[スピーカーテスト]パネルは下部の[Test]ボタンをクリックします。このパネルでは接続されているアナログマルチチャンネル出力の各スピーカーのサウンドのチェックを行います。
サウンドチェックを行いたいスピーカーをクリックしてください。
選択したスピーカーのアイコンが点灯している間に選択したスピーカーからテスト音が出力されます。



クリックする

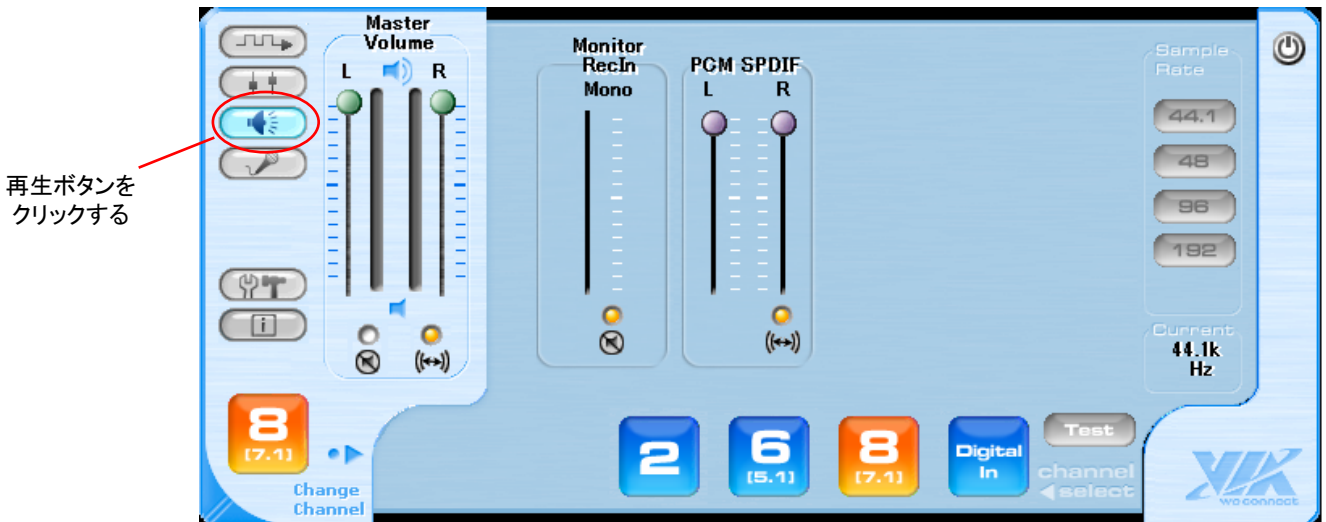
ご注意

- ・ サウンドチェックの前に[拡張設定]の[ステレオエキスパンダー]機能を無効にしてください。
- ・ デジタル出力からはテスト音は出力されません。

■ パソコンから出力される音声ボリュームを調整する(再生パネル)

再生ボタンをクリックしてパネルを開きます。

[再生]パネルではパソコンから出力される音声のボリュームを調整できます。



再生ボタンを
クリックする

● ボリュームフェーダー
各音量を調整します。

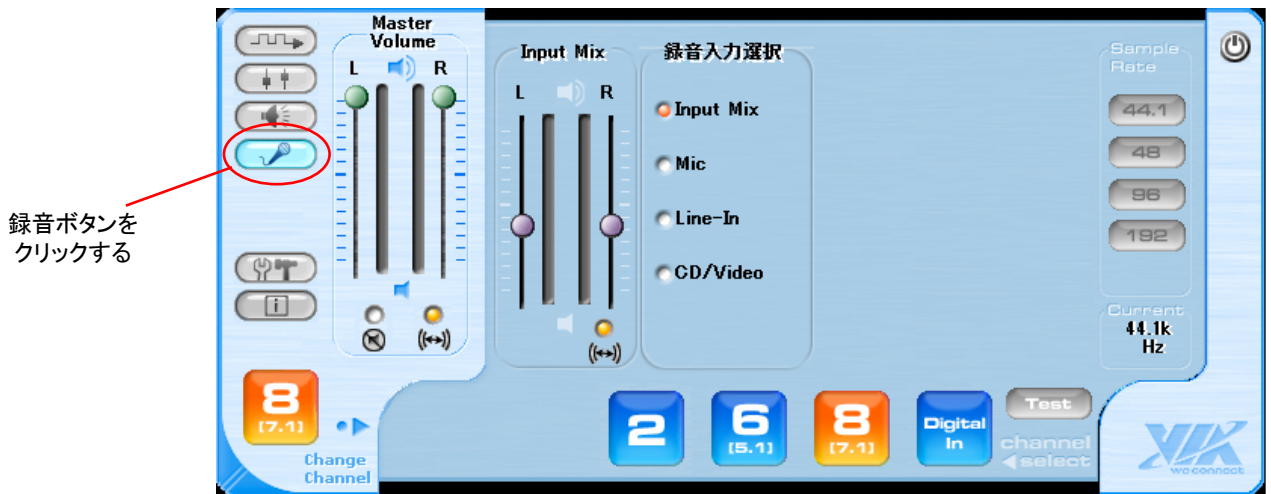
● ミュート
音声を消音にします。クリックしてボタンを点灯させると有効となります。

ヒント
より良い音で聴くために再生時はMonitor Recln枠内のミュートにチェックをつけてください。
インストール時の設定ではミュートの状態になっています。

● フェーダーリンク
各音声の左右のボリュームが同期して上下に移動します。
クリックしてボタンを消灯させると、左右別々に音量を調整することができます。

■ 外部機器と接続して録音を行う(録音パネル)

録音ボタンをクリックしてパネルを開きます。[録音]パネルでは、外部機器からの入力をパソコンのハードディスクに録音する場合に、入力を切り換えたり、入力レベルを調整することができます。



● アナログ入力を録音する時はパネル下側のスピーカーチャンネル数ボタンをクリックしてください。



1. 録音入力選択

パソコンに入力するアナログ音声を切り替えます。

CD/Video* ボード上に内部接続された入力のみを有効にします。

Line-In マルチ入力コードのライン入力のみを有効にします。

Mic マイク入力のみを有効にします。

Input Mix Mic、Line-In、CD/Video の入力のすべてを有効にします。

*Windows Vista以降のOSでは、仕様により内部的にアナログ入力ができないため、この項目は使用できません。

2. Line-In(入力レベル)

録音入力選択で選択された入力音声の入力レベルを調整します。

ヒント

より良い音で聴くために再生時は入力レベルを一番下に設定してください。

● デジタル入力を録音する時は

パネル下部のDigital In ボタンをクリックしてください。

デジタル入力端子に接続されている外部機器のボリュームレベルが表示されます。

このときは特に設定する項目はありません。

デジタル入力選択



■ 拡張設定を使用する(拡張設定パネル)

拡張設定ボタンをクリックしてパネルを開きます。

[拡張設定]パネルでは、オーディオコントロールパネルの表示言語を変えたり、さまざまなサラウンド効果やイコライザー機能を付加して再生することができます。



● 言語

オーディオコントロールパネル(Audio Deck)の各設定表示の言語を選択します。
インストール時の設定は[Auto]です。

● Center/LFE 入替え

マルチ入出力コードの黒(センターおよびサブウーファー出力)の接続端子は左チャンネルにセンタースピーカー、右チャンネルにサブウーファーが割り当てられています。この設定を有効にすると、出力を反転させて、左チャンネルにサブウーファー、右チャンネルにセンタースピーカーを割り当てることができます。センタースピーカーとサブウーファーの音に違和感を感じたときは設定してみてください。

● ステレオエキスパンダー

マルチチャンネル出力接続をしている場合、ステレオ2チャンネルの音声を擬似的に4チャンネル以上のマルチチャンネルに割り振って再生することができます。この機能を使用するときは、一旦再生を停止し、設定を有効にしてから再生を始めてください。

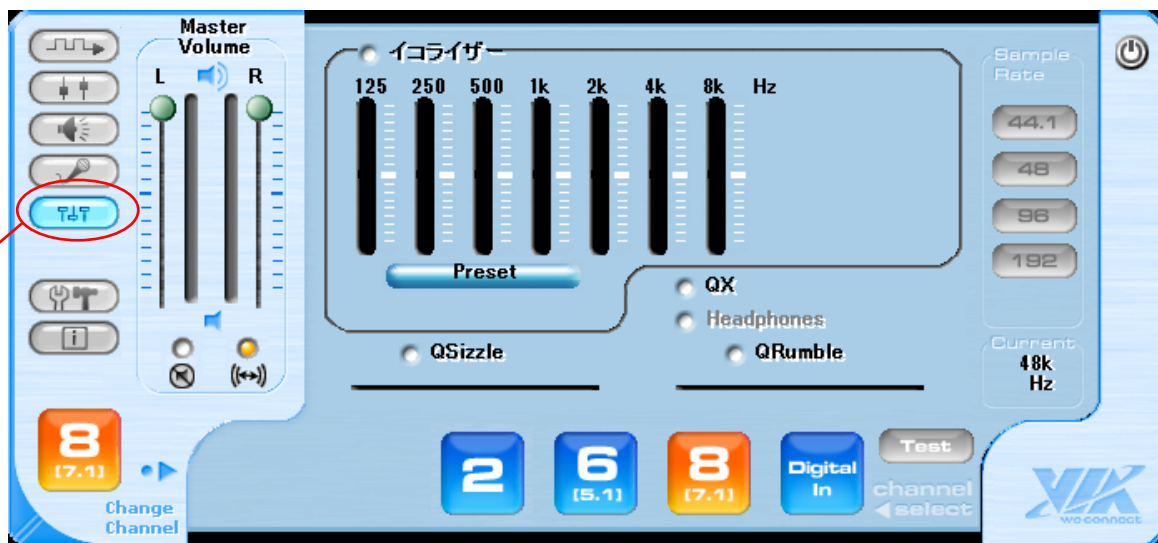
● パフォーマンスモード有効

再生時のMaster Volumeレベルや各スピーカーのレベルインジケータ表示を停止します。

● Immezio 3D Effects Enable

Immezio 3DのQSoundおよびEAX・A3Dなどのサラウンド効果を使用する場合は[Immezio3D EffectsEnable]をクリックします。

パネルの左部分に[サウンドエフェクト]ボタンが追加表示されます。Immezio3DのQSoundの各設定については次のページをご覧ください。

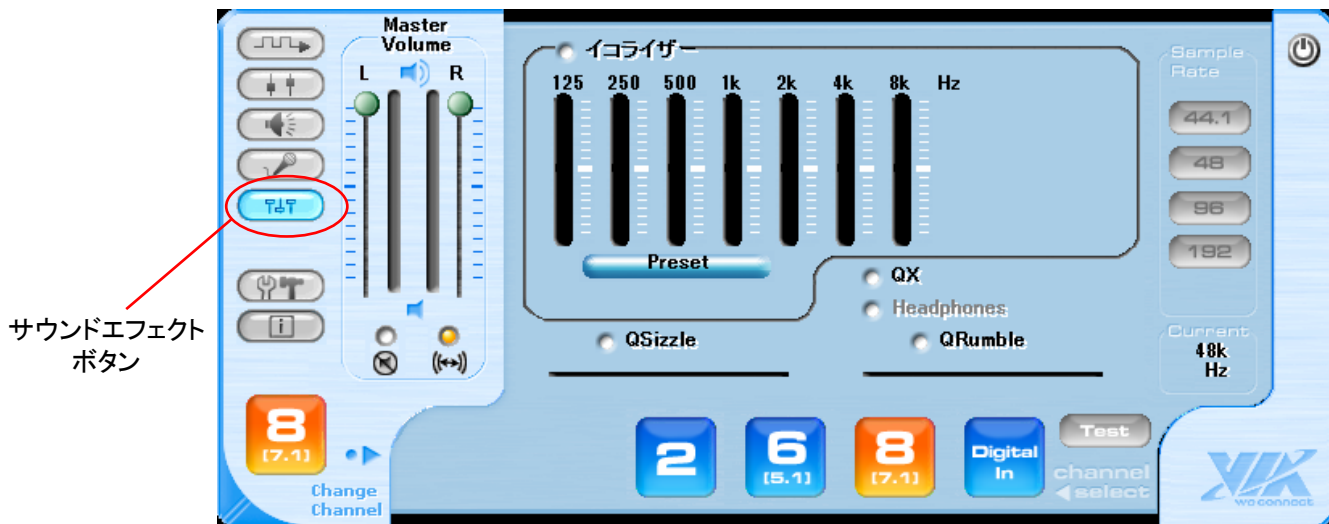


サウンドエフェクト
ボタン

■QSound を使用する(サウンドエフェクトパネル)

サウンドエフェクトボタンをクリックしてパネルを開きます。(サウンドエフェクトボタンを表示させるには、上の項目をご覧になって拡張設定パネルで、[Immezio 3D Effects有効]をクリックしてください。)

[サウンドエフェクト]パネルでは[QSound]を利用してさまざまなサウンド効果やイコライザー機能を付加して再生することができます。



●イコライザー

イコライザー機能を使用します。[イコライザー]ボタンをクリックして、イコライザーボタンを点灯させ、各周波数のスライダーを上下して調整してください。イコライザーを使用しない場合はイコライザーボタンをクリックしてボタンを消灯させてください。

Smooth Slider

周波数のスライダーを上下した際に、その周辺のバンドも同期して上下させることができます。Smooth Sliderは[イコライザー]が有効になっている場合にのみ表示されます。

Presetボタン

あらかじめプリセットされているイコライザー設定 (Techno、Jazz、Pop、Classic) を呼び出すことができます。

また、自分で設定したイコライザーの状態を保存することもできます。

●Q X

2chスピーカーで3次元的な広がり感を付加させることができます。有効にするには、QXボタンをクリックしてボタンを点灯させてください。

●Headphones

Headphonesで聴きやすい音質に調整します。

●QSizzle(キューシズル)

中・高音部を調整します。有効にするには、QSizzleボタンをクリックしてボタンを点灯させてください。スライダーで効果の強さを設定することができます。

●QRumble(キューランブル)

低音部を調整します。有効にするには、QRumbleボタンをクリックしてボタンを点灯させてください。スライダーで効果の強さを設定することができます。

■ システム情報を確認する(システム情報パネル)

システム情報ボタンをクリックしてパネルを開きます。
ドライバやWindowsなどのバージョン情報が表示されます。



システム情報ボタン
をクリック